

2021年10月26日

報道関係者各位

学校法人甲南学園

大学生×神戸版地域おこし協力隊×地元企業×神戸市
“Bamboo に Thankyou Project” —居場所をくれた竹に感謝—
放置竹林の継続的な整備と消費を実現するために大学生が挑戦

このたび、本学の学生、神戸版地域おこし協力隊隊員、地元企業が一つになり、竹林問題に取り組むプロジェクト「Bamboo に Thankyou Project」が発足しました。次頁の通り、本件にかかるプレスリリース資料を配信いたしますので、ご査収いただき取材についてご検討くださるようお願い申し上げます。

なお、本件にかかる取材のお問い合わせにつきましては、本ページ下部の地域連携センター事務室へお問い合わせいただきますよう、お願い申し上げます。

《プレスリリース全体に関するお問い合わせ先》

甲南学園広報部

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1

電話 078-435-2314 FAX 078-435-2546

Email: kouhou@adm.konan-u.ac.jp

《本件に関するお問い合わせ先》

甲南大学地域連携センター事務室

電話 078-435-2276

Email: korec@adm.konan-u.ac.jp

プレスリリース配信先：兵庫県教育委員会記者クラブ、神戸市政記者クラブ

大学生×神戸版地域おこし協力隊×地元企業×神戸市 “Bamboo to Thankyou Project”

—居場所をくれた竹に感謝—

放置竹林の継続的な整備と消費を実現するために大学生が挑戦

甲南大学の学生、神戸版地域おこし協力隊隊員、地元企業が一つになり、竹林問題に取り組むプロジェクト「Bamboo to Thankyou Project」を発足しました。竹林問題の深刻な現状を知った学生の想いを受けて、社会人がサポートする形で、竹の継続的な消費活動を目指して活動しています。活動の資金調達をクラウドファンディングで行い、竹炭パウダーの製造や、竹のクリスマスツリーの製作に挑みます。



●Bamboo to Thankyou Project とは

整備・消費・認知のサイクルを回す事で、竹林問題を継続的に消費できるモデルを作る為に発足されたプロジェクトチームです。

チームは、甲南大学の大学生、神戸版地域おこし協力隊の吉田彰隊員、地域のプロモーションをサポートする地元企業・神戸白黒のメンバーで編成されており、社会人チームがサポートしつつ、学生が主体となって運営を動かす実践型のプロジェクトです。

●チーム発足の背景

甲南大学が実施している「関西湾岸 SDGs チャレンジ (※)」で、SDGs を切り口に地域の課題について考える機会を得た学生。その中で、神戸市が抱える竹林問題の深刻な状況を知り、実際に竹林被害を受けている方のお話や整備活動体験等を通して、整備と消費を継続的にやる提案を行いました。その提案を受けた神戸市より、神戸版地域おこし協力隊と地元企業を繋いでいただき、本プロジェクトが結成されました。

※関西湾岸 SDGs チャレンジは、2018年に甲南大学と朝日新聞社で立ち上げた「地域の課題をSDGsで考える」をテーマに、5市の自治体毎にチームに分かれ、地元高校生と大学生が課題解決に取り組むプロジェクトです。

●“Bamboo to Thankyou”に込めた意味

このプロジェクトは、竹林問題に向き合う事で発足されたチーム。竹をきっかけに新しい繋がりや、居場所が生まれました。また、竹林は今でこそ“問題”として扱われていますが、かつては人間の生活を支えた重要な資源でした。これまでの生活を支え、そして私たちに繋いでくれた竹に感謝して、竹の新しい活路を見出し、竹を中心とした居場所を作ろう。そんな思いが込められています。



BTP 活動① 今後の活動の為の第一歩 『クラウドファンディングで資金調達』

プロジェクトの活動資金を得る為、クラウドファンディングに挑戦します。

返礼品は一般企業の協力を得て、竹炭を使ったブラックたこ焼きや、クラフトコーラなどをご用意します。また、アパレルブランドの「Gap Japan」とコラボレーション商品も登場予定です。

◆クラウドファンディング概要

実施期間：10月25日(月)～11月30日(火)

URL：

https://camp-fire.jp/projects/view/502945?utm_source=qr_code



BTP 活動② オンラインで全国にプロモーション

『KUROMAKA -真っ黒なまかない!?-』

飲食店に竹炭パウダーを使ったまかないを作っていたいただき、各飲食店の SNS でレシピと共に公開していただく企画。知り合いの飲食店にバトンを渡すリレー方式で繋いでいただくので、色々な店舗の真っ黒なまかないが SNS に登場。食べ物という親しみやすいコンテンツから、広い層へのアプローチを行い竹林問題の認知拡大を目指します。

【KUROMAKA 開始日】10月8日(金)～ 随時



学生が自分たちで作った資料で飲食店に協力要請

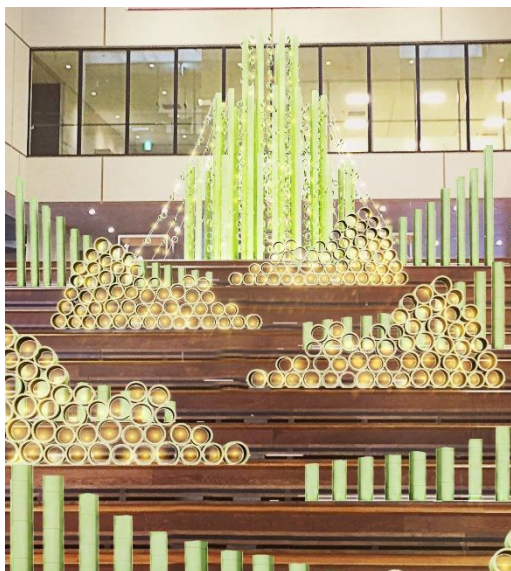
BTP 活動③ 大学生の仲間にプロモーション

『ブラックうまいデー ～黒い竹とのふれあいウィーク～』

大学の学食を運営する生協の協力を得て、期間限定で学食メニューとして竹炭パウダーを使ったメニューを提供。大学生の仲間に向けて、活動を周知する事を目的としています。メニューは学生メンバーが中心となって考案した、自慢のデザートになる予定です。

【限定メニュー提供期間】11月8日(月)～11月19日(金)

※コロナウイルス感染拡大防止の観点から、現在食堂は一般の方の立ち入りはできません



BTP 活動④ 上級生から下級生へプレゼント

『巨大な“竹のクリスマスツリー”の製作』

竹林整備の際に出た竹を活用し、竹のクリスマスツリーを製作。クリスマスツリーの設計は、神戸でも活躍している名古屋のアーティストプロジェクト「SEAGULL」の若手建築士が担当。コンテストの優勝経験を持つ実力派です。

製作、及び設置は主に学生と地域おこし協力隊の吉田彰が担当。コロナの影響で、せっかく入学した大学になかなか通う事ができない下級生に向けて、上級生が激励の意味を込めてプレゼントします。

【クリスマスツリー設置期間】11月末設置予定

【クリスマスツリー設置場所】甲南大学 岡本キャンパス内

【参考資料】竹林問題の現状



◆拡がり続ける竹林面積

日本の竹林面積は年々拡大しています。

竹は生命力が強く、目を見張る速度で成長します。ピーク時には1日で1m程成長する事もあり、2カ月弱の間に20m程成長します。この驚異的な生命力を以て、日本の竹林面積は10年間で東京ドーム1000個分の面積まで広がりました。

その為、継続的な整備が必須ですが、管理者の高齢化や、担い手の不足から、放置竹林が増加していく一方になっています。

《竹林面積》

平成14年3月末現在 156,000ha

平成19年3月末現在 159,000ha

平成24年3月末現在 161,000ha

(※平成30年10月林野庁資料参照)

◆竹林面積の拡大が引き起こす被害例

①鳥獣被害・農作物の不作

放置竹林は、森林伐採で山を追われた害獣の隠れ家になり、竹林に住み着いた害獣が農作物を荒らしてしまいます。更に、竹林に日光を遮られる事で、野菜の成長を阻害してしまう事もあります。こうして農作物が被害を受けると、私たちの食卓にも影響が出てしまう可能性があるのです。

②土砂災害

竹は成長速度が速い上に根が浅く、横に拡がっていきます。その為、大雨により地盤が緩むと、土砂災害を引き起こしやすくすると言われています。実際に、平成10年9月の高知県豪雨災害の際は、被災地の約1/3は竹林であったとのデータもある程です。 ※高知大学、西日本科学技術研究所、愛媛大学研究 資料より

③環境問題

近年世界的に問題になっている、海洋プラスチック問題。WWF JAPANのデータによると、海洋プラスチックゴミは年間で約800t(ジャンボジェット機5万機相当)だと言われています。竹などに代わりプラスチックが活用されはじめてことで、環境に害を及ぼしてしまっています。プラスチック代わりに竹を使う事は、SDGsの項目にある「14.海の豊かさを守ろう」に貢献する事にも繋がります。

メンバーに参加している学生コメント

SDGsで環境問題が注目されていますが、私たち学生はそうした事が他人任せになっていると感じました。このまま何もしなければ、学生時代に何も残せないと考えていました。そんな時、友人に誘われて参加したフィールドワークを通じて、放置竹林の被害を強く実感しました。竹は成長力が強く、他の植物の成長力を妨げます。解消する為には、継続的な竹林整備が必要です。今は、私たちの想いにたくさん方が共感してくださり、甲南大学、神戸白黒、地域町おこし協力隊、神戸市のみなさまにサポートをして頂いています。継続的な整備が実現できる様に、クラウドファンディングの成功を目指し、今後の活動を頑張ります！応援よろしくお願ひ致します。(甲南大学 経済学部 3回生 和田英利)

